

## 授業計画（シラバス）

担当教員： Julie Buring 客員教授

授業科目の名称	疫学		
単位数	1 単位	授業の方法	集中講義
<p>授業の到達目標</p> <p>講義の目的は学生に基礎的な疫学の理論と方法を理解させ、それを公衆衛生学的課題評価にどう適用するか、また疫学的臨床的論文の批判的精読をどう進めるかを示すことである。</p> <p>本コースを修了すると学生は次のことができるようになる：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疫学研究デザインの方法（記述疫学と分析疫学）、疫学研究の解釈（関連性と因果性、偶然、バイアス、交絡）、疾患頻度の指標と関連の指標、効果修飾・パワー/サンプルサイズのような特別なトピックス、を含む疫学の基本的概念と方法を理解する。</li> <li>2. 疫学は臨床や公衆衛生上の問題への量的な対処法を示す公衆衛生と臨床医学の基礎となる科学であることを理解する。</li> <li>3. アウトカムリスク要因である可能性のあるものを仮説検証し評価するために、公衆衛生や医学の論文について知識の豊富な者になることができる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>取り上げる主な主題には次のようなものがある。考え方は生物医学的・公衆衛生学的論文の批判的精読を通して論じられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 疾病頻度の指標、関連の指標：疾病頻度指標（有病率、累積発生率、罹患率）と関連指標（相対危険度、寄与危険度）の特徴及び指標の利用法・解釈・相互関係。</li> <li>• 疫学研究デザインの方法：各方法の特徴、長所、限界。記述研究、観察研究（症例対照研究、コホート研究）無作為化臨床試験。</li> <li>• 疫学研究の解釈：関連性と因果性の概念；研究結果の別の角度からの説明（偶然、バイアス、交絡を含む）；因果成立の条件；効果修飾。</li> </ul>			
<p>授業計画（各コマ 90 分）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入と授業の目的 <span style="float: right;">(1 月 6 日(日) 9:00-10:30)</span> 疫学研究デザインの概要</li> </ol>			

2. セミナー1: 疫学研究デザインの同定 (1月6日(日) 11:00-12:30)
3. 疫学研究の解釈 (1月7日(月) 9:00-10:30)
4. セミナー2: 研究結果の解釈 (1月7日(月) 11:00-12:30)
5. 疾患の頻度と関連の指標 (1月8日(火) 9:00-10:30)
6. セミナー3: 疫学研究の批判的検討 (1月8日(火) 11:00-12:30)
7. 特論 (1月9日(水) 9:00-10:30)
  - ・信頼区間、パワーとサンプルサイズ
  - ・効果修飾
8. ランダム化試験 (1月9日(水) 11:00-12:30)

※英語力や準備知識の不足で援助が必要な学生に対しては、日本人教員・Teaching Fellowによる補講を各講義の後に行う。

テキスト

Hennekens CH, Buring JE. Epidemiology in Medicine. Boston; Little, Brown and Company. 1987.

参考資料

教室配布

学生に対する評価

学生はすべての授業に出席し、講義前に講義資料を読み、授業中の議論に積極的に参加することが求められる。

コース終了後に筆記試験を行う。